

革家ノ胸中ニ廟算ノ豫メ存シタルモノナランヤ。唯々臨機應變ノ處置ハ知ラス覺ヘス。我邦ノ武備社會ヲ一變シテ生産社會トナシ。貴族社會ヲ一變シテ平民社會トナス。大基礎ヲ築キタルナリ。試ニ當時ノ詔勅條例ヲ見ヨ。其意氣凜烈。精神活潑ナル殆ント人ナシテ當時ノ風雲ヲ追懷止ム能ハサラシムルモノアリ。而シテ其ノ「宇内ノ形勢ヲ考察スル」ト云ヒ。「近來宇内大ニ開ケ各國四方ニ相雄飛スルノ時ニ方リ。獨リ我邦ノミ世界ノ形勢ニ疎ク舊守ヲ固守シ。一新ノ效ヲ謀ラス」ト云ヒ。「万里ノ波濤ヲ開拓シ。國威ヲ四方ニ宣布シ。天下ヲ富強ノ安ニ置カン」ト云ヒ。或ハ「唯願ハクハ大活眼大英斷ヲ以テ天下萬民ト共ニ一心協力。公明正大ノ道理ニ歸シ。万世ニ亘テ耻チス。万國ニ臨テ愧チサルノ大根柢ヲ建テサル可ラサル」ト云フカ如キ。是皆ナ其先達ノ諸子カ冥々黙々ノ裡ニ當時ノ大勢ヨリ支配セラレタルヲ知ル可キナリ。實ニ當時ノ大勢ハ恰カモアシビヤノ沙漠海ニ現レタル白雲紅火ノ圓柱カ。彼ノ方向ニ迷フタル以色列人ヲ誘導シタルカ如ク。以テ我カ維新撥亂反正ノ事業ヲ誘導シ。一瀉千里以テ今日ノ新日本ニハ到着シタリ。蓋シ改革先達ノ諸氏固ヨリ曠世ノ人物ナリト雖也。其ノ活眼卓識ニ到リテハ。多ク

横井小楠翁ノ右ニ出ルモノヲ見ス。而シテ翁カ將軍大政返上ノ時ニ際シ。越前老公ニ建白シタルモノヲ見ルニ左ノ如シ。

- 一 幕廷御悔悟御誠心被爲發誠ニ恐悅ノ至也。四藩ノ御方一日モ早ク御登京御誠心ノ御申談シ 朝廷御補佐ニ相成候ヘハ。皇國ノ治平根本此ニ相立申候。幕公彌以御滯京ニテ正義ノ人々御舉用先ツ某殿御登浦御誠心御培養是レ第一ノ所希也。
- 一 一統ノ諸侯早速ニ御登京ハ如何。一先重役御差出候方多分可有之。新政之初別而御大事ニテ四藩ノ内御登京ノ上ハ大赦ノ大號令被仰出度。
- 但シ 朝廷モ御自反御自責被遊。天下一統人心洗濯所希也。
- 一 一大變革ノ御時節ナレハ議事院被建筋尤至當ナリ。上院ハ公武御一席。下院ハ廣ク天下ノ人才御舉用。
- 一 四藩先ツ執政職被仰付。其餘ハ諸侯賢名相聞ヘ候上追々ニ御登用。
- 一 皇國政府相立候上ハ金穀ノ用度一日モ無ンバアルヘカラス。勘定局ヲ被建（此人撰コト大切）差寄五百万兩位ノ紙幣出來皇國政府ノ官印ヲ押シ通用可相成事。

一 皇國中ノ知行ニ課シ。高一万石ニ百石ト定メ政府ノ貢米ニ可被仰付事。

但幕府御辭職ナレハ莫大ノ用度ヲ被省諸侯家歸國參勤相止。江戶引拂ニテ是又莫大ノ省減也。十分一ノ貢米ハ當然ナリ。紙幣ハ此貢米ヨリ漸ク取收ノ事。

一 刑法局ヲ可被建事。

一 海軍局ヲ兵庫ニ可被建。關東諸侯ノ軍艦御取寄セ十萬石以上ノ大名ニ課セテ。高ニ應シ。人數ヲ定メ。兵士ヲ出シシメ。西洋ヨリ航海士并ニ指揮官ヲ乞ヒ受ケ。専ラ傳習セシメ年々艦數ヲ増シ。熟練ノ上ハ人心一致士氣盛興萬國ノ形勢ト可並立事必然ナリ。其總督官ハ大名ノ内其器ニ被當ル人へ被命。以下ノ士官ハ關東諸藩當時熟練ノ士ヲ擧用ス可シ。總テ用度ハ先ツ勘定局ヨリ出シ外國交易盛行ノ時ニ到レハ諸港ノ運上交易ノ商稅ヲ以テ之ニ當ツ可シ。

此ノ費川莫大ナレハ貨財運川ノ妙ハ議事院中ノ人傑必ス能ク之ヲ辨スルモノアラソ。

一 兵庫開港期日既ニ迫レリ國體名分改正ノ初ナレハ舊來ノ條約明白適中セサルハ一

々ニ改正シ公明正大百年不易ノ條約ヲ定ム可シ。唯恐ラクハ事件ニ因テハ忌嫌ナキニシモアラサル可シ。是等後日ノ大悔ト成ルヘキヲ慮リ公平ノ談判アラシムコトヲ欲ス。

一 外國ニ交易商法ノ學アリテ世界產物ノ有無ヲシラヘ。物價ノ高下ヲ明ニシテ廣ク萬國ニ通商シ更ニ又商社ヲ結ビ。互ニ相影響ヲナス。如此熟練ヲ以テ我カ拙劣ノ人ニ對ス。殆ト大人ト小兒トノ如シ。是レ彼レカ大奸ヲナス所以ナリ。六餘年來三港ノ交易我ニ於テ一人ノ富ヲ爲サス。彼ハ總テ大富有ノ商トナレリ。此現實ニテ是迄ノ交易我カ大損タルコト分明ナリ。要之我ヨリ外國ニ乘リ出サハルノ大弊ニテ今日之ヲ改メシムコトヲ欲ス。西洋ニ於テハ魯。英。佛。墨。蘭ノ五國。漢土ニテハ天津。上海。廣東。ノ三港ニ日本商館ヲ設ケ建ツヘシ。扱内地ニ於テ商社ヲ建テ兵庫港ナレハ五畿内四國南海道ノ大名ハ申スニ不及。商人百姓タリトモ望ニ因テハ其社ニ入レ同心一致シ相共ニ船ヲ仕立乘リ出シ交易ス可シ。他ノ三港ハ是ニ准シテ略ス。唯妄ニ出入ヲ禁シ必ス其港ノ鎖鑰ノ印鑑ヲ受ケ行ク先キノ日本商館ヘ達ス可シ。

歸帆モ又同様ナリ。如斯ナレハ自然ニ商法ニ熟シ。其利ヲ得ルコト分明ナリ。内地モ亦自然ト彼等カ奸ヲ剝シ公平ノ交易ニ歸スヘシ。是等尤大事件ニ關スレハ速ニ議定アラソトヲ欲ス。

一外國公使奉行并諸侯領事等ノ御役人關東御辭職トイヘレ諸侯ノ長ニテ候ヘハ其職一人ハ旗下ノ士ヨリ撰用ニ定メ其餘ハ下院中ヨリ撰擧。

一大小監察右筆等ノ類無用ニ屬ス廢職ナル可シ。記録布告等ハ下院ニテ爲ス可シ。如斯ナレハ簡易ノ政事ニ歸スル也。

一國體改正ニ因テ各國ニ公使ヲ被立布告可有之事。

右等件々即今ノ御急務ト奉存候。學校ヲ初メ御改政ノ諸事愚存御座候得共政府ノ御基本相立候上御取與ノ事ト奉存候。至急ニ相認メ別テ不都合ニ御坐候ヘレ聊カ寸心表白迄ニ獻言仕候以上。

吾人ハ之ヲ一讀シテ實ニ翁ノ規模遠大固ニ改革卒先者タルニ愧チサレテ慙スト雖。然レトモ尙ホ翁ノ眼中ニスラ封建ノ制度ハ恍惚トシテ存シタルヲ見ルナリ。然ラハ則チ

此ハ軍隊組織ノ社會ヲ顛覆シタルハ是レ誰レノ力ソヤ。所謂趙翼カ則知人情猶狂於故見。而天意已別換。新局ニ者ニシテ天下ノ大勢止ム可ラサルカ故ニ非スヤ。

吾人ハ實ニ維新ノ歴史ヲ讀ムニ際シ。未タ一トシテ其事業ノ尋常ノ原因ヨリ出テ、尋常ノ結果ニ入リタルモノヲ見ス。其前提ト其結論ト相共ニ普通ノ關係ヲ有シタルモノヲ見サルナリ。ソレ幕府ニ抗敵シ。一戰以テ之ヲ倒シタルハ薩長二藩ナリ。二藩タルモノハ以テ幕府ノ遺跡ヲ繼キ東西ノ二大將軍トコソナル可キニ。却テ藩籍奉還ノ議ヲ上リタルト此ノ二藩ノ卒先超群ニ出タルハ何ソヤ。維新ノ大功臣ナルモノハ問ハスシテ西郷。木戸。大久保ノ諸氏ナルヲ知ル可シ。而シテ廢藩置縣ノ議ノ却テ此等諸氏ノ主張煽動ニ出タルハ何ソヤ。維新ノ改革ハ一ノ武士カ他ノ武士ニ向テ其勝ヲ制シタル即チ武士ノ改革ナリ。然ルニ彼ノ武士ナルモノハ主トシテ武士ノ權ヲ殺キ。其特例ヲ奪ヒ。其特許ヲ剝キ。家祿ヲ沒收シ。其生命ト賴ミタル刀劍サヘ帶ルヲ禁シタルハ何ソヤ。人。哲學者ニ非ス。誰レカ勞シテ其功ヲ求メサルモノアラソヤ。然ルニ彼ノ維新改革ノ功藩功臣諸氏ハ電掣雷擊ノ死地ニ立チ。万死一生ノ途ヲ出入シ。端ナク之ヲ成就スルニ際

シ。却テ其功ニ居ルヲ欲セス。之ヲ天下ニ推シ及ホシ公明正大ノ政略ヲ採リタル所以ノ者ハ何ソヤ。必ス故アラソ。

蓋シ表面ヨリ觀察スレハ。此等ノ推讓ハ煙火ヲ食マサル天使ノ事業ニシテ。到底濁世煩腦界ノ人間ノ事業ニアラス。サレハ此等ノ諸氏ハ殆ント情海慾瀾ノ外ニ超然タル天人ナラント疑ハル、カ如シト雖トモ。裏面ヨリ之ヲ觀察スレハ決シテ怪ムニ足ラサルナリ。何トナレハ必然ノ勢止ムヲ得サレハナリ。ソレ必然ノ勢ニ壓迫セラル、時ニハ何人ト雖トモ哲學者タルヲ得可シ。聖人タルヲ得可シ。何ソ獨リ維新改革ノ諸氏ノミナランヤ。

彼ノ諸先達モ亦人ナリ。豈ニ其胸中一點名利ノ心ナカラソヤ。凡ソ人生ノ事業ニ於テ多少ノ賭博ノ分子ヲ帶ヒサルモノハアラス。而シテ其分子ノ多少ニ從ヒ。危險ノ性質ヲ帶ハサルモノハアラス。而シテ人生ノ事業未タ政治ノ改革ヨリ賭博的ノモノハアラス。既ニ然ラハ其危險ナル亦知ル可シ。然ルカ故ニ此ノ天荆地棘ノ世界ニ奔走シテ幸ニ其目的ヲ成就スルヲ得ルニ及ソテハ唯意ノ欲スル儘ナリ。思フ所。願フ所。何事カ成ラサ

三郎曰、自時勢
流變見之古今
英雄皆如魚蝦
浮游波瀾間而
已世之英雄自
居者不顧時運
如何動則言乃
公意如此、嗚呼
難知運動其足
底者、嗚呼英雄
去向東海矣哉

ノ。何事カ遂ケサラン。是レ則チ我カ東洋ノ改革家タルモノ誰カ此ノ如ク爲サ、ルモノアラソヤ。而シテ彼ノ維新先達ノ諸公ハ何故ニ此ノ快活豪爽ナル東洋流ノ英雄ヲハ學ハスシテ却テ謹嚴端正ナル米國ノ創業者ノ如キモノヲ擬シタルカ。是レ實ニ止ム可ラサルモノアレハナリ。嗟呼宇内生産的ノ境遇ト平民主義ノ大勢トハ我カ幕府ヲ驅リ。我カ井伊大老ヲ驅リ。我カ水戸烈公藤田東湖ヲ驅リ。我カ佐久間吉田諸氏ヲ驅リ。我カ梁川星嚴ヲ驅リ。我カ横井小楠翁ヲ驅リ。會桑ヲ驅リ。越前公ヲ驅リ。薩長二藩ヲ驅リ。西郷木戸大久保諸氏ヲ驅リ。佐幕勤王ヲ論ナク。攘夷開港ヲ問ハス無謀ノ暴舉ニセヨ。活眼ノ經綸ニセヨ。因縁モナク。關係モナク。個々分離。自家撞着ノ事業ヲハ其ノ備型ノ中ニ溶解シ之ヲ壓搾シテ當時英俊豪傑カ龍顛虎倒ノ分子ハ尋ヌルニ痕ナク。唯一ノ新日本ナル固結體ヲ製出シタリ。此ノ新日本コソ則吾人カ現今ノ日本ナリ。

第十五回 現今ノ日本 二 (同上)

如何ナル時代ニ於テモ現在ナルモノハ必ス過去ノ分子ト未來ノ分子ト相衝突シ。相搭
 門スルノ戰場ト云ハサル可ラス。此ノ理果シテ眞ナラハ我日本ノ現今ニ於テ尤モ眞ナ
 リトセサル可ラス。何トナレハ彼ノ過去ノ世界ト未來ノ世界トハ決シテ同一ノ世界ニ非
 スト雖モ其進歩ヲ秩序ノ中ニ保ツノ社會ニ於テハ其相距ル殊ニ遠カラス。前岸ニ出沒
 スルハ人影ハ後岸ニ立ツ人ノ眼中ニハ容易ニ之ヲ瞥見シ得ルカ如シト雖。現時ノ日本
 ナルモノハ吾人カ嘗テ「第十九世紀日本ノ青年及其教育」ノ小冊子ニ於テ論シタルカ如
 ク
 蓋シ維新大改革ノ大波瀾ハ實ニ我カ青年ト老人トノ距離ヲシテ數千万里ノ外ニ隔絶
 セシメタリ。試ニ泰西ノ開化史ヲ一瞥セヨ。彼ノ北狄蠻人カ鉄劍快馬。羅馬帝國ヲ蹂
 躪シ遂ニ封建割據ノ勢ヲ馴致シ。君主。臣僕ノ制度ヲシテ。歐洲全土ニ波及セシメシ
 ヨリ已來。第十九世紀ノ今日ニ到ル迄。大凡ソ四五百年ノ星霜ヲ經歷シ。歩々一步ヲ
 轉シ。層々一層ヲ上リ。知ラズ識ラス。今日ニ到レリ。此ノ正經着實ナル進歩ニ反シテ
 我邦ニ於テハ此ノ數百年ノ長程ヲ一瞬一息ノ中ニ奔馳シ。遂ニ之カ爲ニ數百年前封建

ノ殘餘ト數百年後文明ノ分子ト同一ノ時代ニ於テ。同一ノ社會ニ於テ。肩ヲ摩シ。袂
 ヲ連テテ。生活セサル可ラサル奇異ノ現像ヲ雲時ニ幻出スルニ到ラシメタリ。
 然ラハ則チ現今ノ日本ハ封建時代先天ノ日本ト。明治時代後天ノ日本トノ大激鬥ノ戰
 場ト云ハサル可ラス。若シ偶像ヲ破壊シテ并セテ其偶像ヲ拜スル所ノ迷心ヲ破壊スル
 一ヲ得。家屋ヲ燦燼ノ併セテ家屋ニ住スル人ノ習慣。偏癖ヲ燦燼スルヲ得。制度ヲ顛
 覆シテ并セテ其制度ヲ維持シタル固陋ナル觀念ヲ顛覆スルコトヲ得。社會ヲ改革シテ
 并セテ社會ノ精神。元氣ヲモ改革スルヲ得ハ。天下ヲ改革スルハ掌ヲ反スヨリモ容易ナ
 ル可シト雖。此ノ如キ哲學者ノ奇石ナルモノハ決シテ社會自然ノ理ニ於テ存スル能ハ
 ス。サレハ今日ノ我カ滄鮮爽快ナル日本ノ新天地ニ於テヌラ尙ホ舊分子ノ冥々隱々裏
 ニ飛揚跋扈ノ威勢ヲ逞フスルモ亦故ナキニアラサルナリ。彼ノ東方日出テ、尙ホ燈ヲ
 點シ。天下公衆ニ向ツテ自ラ喋味ノ吹聴ヲナスモノハ固ヨリ論スルニ足ラス。唯彼ノ自
 ラ天下ノ廣居ニ立チ。改進ノ木鐸ヲ以テ任スル人ニシテ仍ホ舊日本ノ爲ニ支配セラル
 、モノアルハ何ソヤ。

試ニ見ヨ。今日ニ於テ政治社會ヲ支配スル重ナル精神ハ何物ゾヤ。封建ノ遺習ニ非スヤ。即チ土地偏着ノ割據主義ニ非スヤ。ソレ封建社會ハ忽然トシテ倒レタリ。吾人ハ唯記應ノ世界ニ向テ之ヲ尋ヌルヲ得可シ。然レトモ封建社會ノ精神ハ巍然トシテ山ノ如ク屹立スルニ非スヤ。吾人ハ今日ニ於テ封建割據ノ結合ノ外ニ未タ政治上ノ結合ナルモノヲ見サルナリ。封建動閥ノ外ニ未タ真正ノ政治上ノ權勢ナルモノヲ見サルナリ。封建感情ノ外ニ未タ真正ノ感情ナルモノヲ見サルナリ。實ニ我權威アル政治家ハ腦中ニハ不幸ニモ未タ我カ日本全軀ノ社稷人民ヲ網羅スルカ如キ思想ノ缺乏ニシテ。却テ其地方一割結ハ勢力ヲ以テ天下ヲ支配セントスルカ如キ思想ノ過多ナルヲ見ルナリ。豈ニ嘆セサル可ケンヤ。

且ツ官途ノ價值アル未タ我邦ノ今日ノ如キモノハアラス。朝野ノ差別ハ恰モ稱樂地獄ノ相違アルカ如ク。九天ノ上。九地ノ下。其相距ル千万里程モ啻ナラズ。如何ナル人物ニテモ一タヒ官途ニ上レハ恰モ龍門ニ上リタルカ如ク。意氣揚々。願盼自ラ雄嚴ニシテ。而シテ他人ノ之ニ接メル生ケル鬼神ニ事フルカ如ク。慇懃ニ尊崇スルモ亦甚矣。昔羅馬

三郎曰、入俗士
 肺癆瘵俗士思
 想、使人不覺發
 一笑、

ノ英雄シーザルノスペインノ知事ニ任セラル、ヤ。慨然トシテ曰ク羅馬ニ於テ第二流ノ人物タランヨリ。寧ロスぺインニ於テ第一流ノ人物タルニ孰若レソヤト。若シ吾人ヲシテ適當ニ今日ノ有様ヲ評セシメハ此ノ如ク謂フ可シ。曰ク英國ニ於テアグワッドストンタランヨリ。我邦ニ於テ書記官タラント。意フニ世界万邦何ノ處カ我官吏市場ノ如ク其好景氣ヲ有スルモノアランヤ。然ラハ則チ怪ム勿レ。我民間ニ學士。事業家。率先者。ノ少キヲ怪ム勿レ。何トナレハ假令此等ノ人々ニシテ自ラ民間ニ足ヲ止メントスルモ。決シテ其驥足ヲ伸スノ餘地ハ存セサルナリ。即チ我民間ノ境遇ハ天下有爲ハ人士ヲ追フテ悉ク之ヲ政府ノ圍籠内ニ入ラシメタリ。吾人ハ固ニ信ス。苟モ民間ノ境遇ニシテ此等ノ人々ノ位地ヲハ政府ノ官吏ト同等同地位ニ立タシムルノ域ニ進マサルヨリハ。決シテ此等ノ官途熱望者ヲ一變シテ。民間ノ事業家トナス能ハサルナリト。而シテ此ノ弊習モ亦タ偶然ニ非ス。唯實ニ封建時代ノ遺物ナリトス。

眼ヲ轉シテ現今ノ經濟世界ヲ觀察スレハ未タ嘗テ獨立獨行。政治社會ノ牽制ヲ超脱シテ其純然タル經濟的事實ナルモノヲ見ス。例ヘハ日本銀行ノ貨幣市場ニ於ケル。日本

鐵道會社ノ鐵道事業ニ於ケル。日本郵船會社ノ航海事業ニ於ケル。嶄然トノ頭角ヲ顯ス
 カ如シト雖モ要スルニ是レ皆政府ノ餘力ニ馮リ。政府ノ餘光ヲ假リテ自ラ豪ナリトナ
 スニ過キス。其他二十年間我邦人ノ耳目ニ赫々タル土木築造ノ如キ。採礦ノ如キ。或ハ
 農工商ノ改良ノ如キ。是レ皆明治政府ノ事業ニ非サルハナシ。而シテ彼ノ民間ノ有志者
 カ偶々獨立ノ營業ヲ創ムレハ。多クハ中途ニ種々ノ口實ヲ設ケ。政府ノ保護ヲ仰キ。
 其干渉ヲハ自ラ好シテ被ラサルモノハ殆ント稀ナル有様ナリ。彼ノ三府五港ハ勿論。各
 都府ニ於テ自ラ誇稱シテ紳商ト稱シ。自ラ商業世界ノ寡人政府ヲ組織シタル人々ヲ見
 ヲ。其人々ハ未タ一人トシテ政府ト至密ノ關係ヲ有セリル人アリヤ。其事業ハ未タ一事
 トシテ政府ト縁故アラサル事業アルヤ否ヤ。蓋シ之アラソ。吾人ハ未タ之ヲ見ルヲ得サ
 ルニ苦ムナリ。吾人ハ中古ノ歴史ニ於テ歐洲ノ土地ハ悉ク封建君主ノ所有ニ非サルモ
 ノハナク。而シテ偶々自由所有主アレハ其所有主ハ之ヲ封建君主ニ獻シ。更ニ其臣民ト
 シテ之ヲ借地スルノ有様ナリシヲ知ルナリ。今ヤ我邦ノ經濟世界ハ單口之ニ類スル
 ナカラソヤ。若シ人。吾人ニ向テ今日ノ有名ナル我邦ノ紳商ハ封建時代ノ所謂官吏ノ一

部トモ云フ可キ御用達ト幾何ノ相違アルカト問ハ。吾人ハ未タ其相違ノ點ヲ舉クル
 能ハサルニ苦ムナリ。

凡ソ政治上ニ於テモ。經濟上ニ於テモ。媚ヲ呈シ。諂ヲ獻シ。百伶千俐。自ラ辯問者流ヲ
 以テ任スルノ輩ハ。深ク貴ムルニモ足ラス。唯吾人カ朋友トモ味方トモ思ヒ。頼母欺キ
 人々ト親信スル。所謂自由ノ辨護者。民權ノ率先者。天下ノ志士ヲ以テ任シ。慷慨悲歌自
 ラ禁スル能ハサル正議諸君子ノ舉動ニ關シテモ甚タ敬服ノ情ヲ表スル能ハサルモノア
 リ。

抑モ此ノ諸君子ハ純乎タル急進自由ノ率先者ナレハ其政治上ノ意見。議論。運動。行爲
 ハ徹上徹下。唯自由主義ト相始終スルコソ志士ノ本色トモ。眞面目トモ云フ可キナレト
 モ。退テ其私ヲ省ミレハ成程自由主義ハ自由主義ニ相違ナカル可シト雖トモ我邦一種
 特別ノ自由主義ニシテ所謂江南ノ福モ之ヲ江北ニ移セハ積トナルカ如ク。アングロサ
 クソンノ自由主義モ是ヲ我邦ニ移セハ自ラ其性質ヲ一變シ。寧ロ是ヲ日本流若クハ封
 建的ノ自由主義ト云ハサル可ラサルカ如キ異相ヲ呈シタリ。何トナレハ彼ノ諸君子ハ

三昨日、一步緊
 於一步、漸進入
 自由業者流弊
 論、

三昨日、僕亦平
 生笑此徒所爲
 如此、願至此段
 不勝愉快、

平生ハ誇々トシテ單純ナル自由民權ノ主義ヲ論辨スルニ係ラス。乍チ隣國ニ事アレハ曰ク何ソ速ニ長白山頭ノ雲ヲ踏破テ四百餘州ヲ蹂躪セサルヤト。夫レ外取一タヒ開カハ。政府ノ權力愈々増大ナラサルヲ得ス。政府ノ權力愈々増大ナルハ一己人民ノ權力愈々減少セサルヲ得ス。武備機關愈々膨脹スルハ生産機關ハ愈々收縮セサルヲ得ス。常備軍ノ威勢飛ンテ天ヲ壓スル時ハ。人民ノ權理舞フテ地ニ墜ルノ時ナリト云ハサルヲ得ス。然ルニ彼ノ諸君子ハ斯ル事ヲ思フヤ思ハサルヤ。人民ノ利害休戚ナハ兒戲ノ如クニ見ナシ。唯々開戰論ヲ主張シ。獨々之ニ止マラス。併セテ之ヲ實行セント欲シ。或ハ義捐金ヲナシ。或ハ從軍ノ嘆願ヲナシ。或ハ猛激粗暴ナル檄文ヲ投シ。或ハ詭激無謀ナル舉動ヲナシ。怙トシテ自ラ怪マス。却テ志士ノ本色トナスカ如キハ何ソヤ。而シテ又傍觀者ノ之ヲ擯斥セサルノミナラス。却テ喝采鼓舞スルモノアルハ何ソヤ。

吾人ハクニエカールノ宗徒ニモアラス。又タウヰ井リヤム。ペーレン氏ヲ以テ自ラ任スルモノニモアラス。サレハ事情ヲ論セス。場合ヲ問ハス。決シテ外戰ヲハ爲ス可ラスト云フニハアラサレ也。唯方々止ムヲ得サルノ場合ニ於テ唯一國ノ正義ト軀面トチ平和ノ談判ニ

テ調フ可ラサルノ場合ニ於テ。即チ仁義盡ルノ場合ニ於テ始メテ之ヲナサント欲スルモノナリ。故ニ吾人ハナボレオンノ侵略主義トワシントシテ自由主義トハ決シテ兩立シ得可キモノニアラスト信スルナリ。而シテ彼ノ諸君子ハ平生ワシントシテ自由主義ヲ以テ自ラ任スルニモ係ラス。一事件ノ生出シ來レハナボレオンノ戰爭主義ヲ以テ之ヲ任シ。一人ニシテ兩様ノ人物ヲ兼テント欲スルニ到リテハ吾人カ實ニ解セサル所ナリ。

彼ノ平生自由ノ朋友ヲ以テ任スルノ諸君子ニシテ其反覆豹變。其徳ヲ二三ニスル此ノ如シ。自由ヲシテ口アラシメハ。正ニ天下ニ知己ナキヲ泣ク可矣。ソレ如此シ。吾人奚ソ我邦ニ於テ自由主義ノ未タ其勢聲ヲ得。其全社會ヲ舉ケテ。全國ヲ舉ケテ。自由ノ帝國トナシ。全人民ヲ舉テ自由ノ人民トナス能ハサルヲ怪マンヤ。然ラハ即チ我自由主義ノ率先者モ其隱秘ナル腦中ハ依然タル封建ノ頑民タルニ過キサルナリ。今ヤ我邦ニ流行スル國權論武備擴張主義ノ如キモ要スルニ其新奇ナル道基ノ外套ヲ被ルニモ係ラス。皆是レ陳々腐々ナル封建社會ノ舊主義ノ變相ニ過キサルナリ。ソレ政治ノ問題ハ事實

三節曰、僕等所
被授自山家、
以同一言、
至此、怡行山中
遂爾友之思、

ノ問題ナリ政治上ノ經驗ハ化學家カ元素ノ試驗ヲナスカ如ク。容易ニシテ廉價ナルノ經驗ニアラス。而シテ世上往々政治ヲ以テ一ノ玩弄物トシテ其經驗ヲハ烟火ノ如ク愉快ナルモノトナシ。其問題ヲハ詩人ノ花鳥風月ニ於ケル。小説家カ人情ノ變態ニ於ケルト一般ノ思ヲナシ。變忽變化。以テ放言高論ヲ逞フシ。以テ愚妄無識ノ人民ヲ籠絡セントスルカ如キモノアリ。吾人ハ實ニ邦家ノ爲ニ之ヲ慷慨セリルヲ得ス。

彼ノ旗ヲ黑龍江上ノ朔風ニ翻シ。馬ヲ富山ノ第一峯ニ立テ白ラ歴山大帝。枯木兒ヲ以テ任スルハ。快ハ則チ快ナリト雖モ。果シテ此ノ如キ壯圖雄略ハ實行セラル可キヲナリヤ否ヤ。論者ハ自ラ之ヲ實行セント思フヤ。否若シ自ラ實行ス可ラサルヲ知テ大言ヲ逞フスルハ是レ人ヲ欺キ。天ヲ欺キ。且ツ自ラ欺クナリ。若シ眞ニ之ヲ實行セント欲スル乎。是レ實ニ如何ナル無謀ノ匹夫黑旋風李遠ト雖モ其無謀ニハ驚絶ス可シ。論者ハ宜ク梁山泊ノ世界ヲ求メテ之ニ赴ク可キナリ。記臆セヨ今日ハ是第十九世紀ノ文明自由ノ世界ナルヲナシ。吾人ハ之ヲ開ク古ヘ無骨ナル武士アリ。當テ曾我物語ヲ讀ミ。曾我兄弟カ其父繼ヲ報シタル痛快淋漓ノ段ニ到リ。驟然トシテ案ヲ拍テ曰ク我豈ニ一度ハ父讐ヲ

報スル能ハサランヤト。論者モ亦此類ナラン。ソレ實際ニ行フ可ラサルヲ思ヒ。實際ニ行フ可ラサルヲ口ニスルハ詩人。小説家ノ任ナリ。我カ政治上ノ世界ハ廣大無邊ナリト雖モ未ダ斯カル一種ノ奇怪ナル妄想說ノ實行ヲ容サ、ルナリ。更ニ又タ一種ノ論者アリ。曰ク今日ニ於テハ内ニ一尺ノ民權ヲ伸サンヨリ。外ニ一寸ノ國權ヲ擴ムルニ如カス。武ニ非レハ國ヲ立ツル能ハス。兵ニ非レハ國ヲ保ツ能ハス。ソレ今日ハ優勝劣敗ノ世界ニアラスヤト。ソレ國家ノ目的ハ如何ノ點ニ存ズルカ。國家ハ何ノ爲ニ組織セラ、ル、カ。リ。バ。ル。ウ。ル。シ。ト。ミ。ル。ス。メ。ン。セ。ル。一。人。ト。シ。テ。國。家。ノ。目。的。ハ。一。己。人。ヲ。保。護。ス。ル。ニ。ア。ル。ト。シ。テ。説。カ。サ。ル。モ。ハ。ア。ラ。ス。吾人ハ決シテ喋々トシテ茲ニ政治學ノ講義ヲナスヲ要セス。論者少ク自ラ省察スレハ可ナリ。ソレ如何ニ國權ヲ擴張シ。外國ヲ侵掠シタリトテ一己人民ノ權利ヲハ蹂躪シ去ラハ國家ノ目的焉クニアル。古來ヨリ世ノ壓制君主ニシテ民權ヲ壓倒センカ爲ニ國權擴張ニ從事シタルモノソレ幾人カアル。論者ノ言ノ如クシハ此ノ如キハ尤モ願フ可キヲナラン。果シテ然ラハ論者ハナポレオン第三世ノ如キ人ヲ帝王ト仰クニシテ其本望ナラン。即チ壓制殘忍ナル歐洲ノ籠絡巧詐ノ帝王ノ臣民

タルヲ欲スル乎。且ツ今日ノ世界ヲ以テ周末秦初七雄ノ時代ト同視スルカ如キハ尤モ迂遠皮相ノ見ト云ハサル可ラス。勿論吾人ハ今日ヲ以テ黄金ノ世界トモ思ハス。睡眠ノ社會トモ信セス。優勝劣敗ノ大法則ハ昔時ノ如ク否ナ寧ロ昔日ヨリ一層快活。周密ニ行ハル、コトヲ信スト雖也。其優勝劣敗ナルモノハ唯兵力ノ多少ニヨルヤ否ヤ。吾人ハ之ヲ知ル彼ノ文明ノ未タ社會ニ出來ラス。文明ノ利器未タ社會ニ出來ラサル時ニ於テハ。優勝劣敗ナル者ハ唯ク簡單ナル腕力ノ一作用ヲ以テ判斷ス可シト雖也。今日文明ノ利器燦然トシテ社會ヲ支配スル時ニ於テハ腕力モ固ヨリ一分子ニ相違ナシト雖也。吾人ハ之ヲ以テ唯一ノ分子トモ。又重ナル分子トモ思ハサルナリ。而シテ吾人ハ寧ロ富ト智力トヲ以テ尤モ恐ル可キ。尤モ勢力アル分子ナリト信スルナリ。即チ優勝劣敗ノ大法ハ如何ナル國牝ヲモ。如何ナル人種ヲモ。荷モ野蠻ニシテ貧乏ナレハ之ヲ吞滅シテ以テ文明ニシテ富メル國ノ餌食トナスヲ信スルナリ。故ニ若シ我邦國權ハ振ハサルヲ嘆シ。我邦國威ノ揚ラサルヲ嘆シ。我邦獨立ノ長カラサルヲ嘆スルモノハ唯一ノ遲疑ナク。一ノ姑息ナク。我邦ヲシテ文明ニシテ富實ナル國トナシムルニアルナリ。

且ツ或ル論者ハ曰ク。國モ富サ、ル可ラス。兵モ強クセサル可ラス。強兵富國ハ決シテ分離ス可キモノニアラス。蓋シ此ノ二者ハ恒ニ相携ヘ。相伴ヒ。未タ嘗テ一日モ相乖離シタルコトアラス。故ニ我邦ニ於テハ唯公平至當一様ニ之ヲ伸暢ス可キノミ。亦何ソ其輕重。前後。緩急ヲ是レ論セシヤ。」ト此ノ論甚ク穩當着實以テ俗人ヲ瞞着スルニ足ルト雖也。靜カニ考フル時ハ實ニ一種ノ詭辨ト云ハサル可ラス。試ニ思ヘ國富メハ以テ兵強キヲ得可シ。何トナレハ假令過多ナル常備軍ナキモ。其人民ハ獨立自治。以テ其國家ト一人ノ自由ノ爲ニ取テ可シ。其器械ハ以テ精緻細巧ノ妙品ヲ整フルヲ得可シ。然レモ直ニ之ヲ倒裝シテ兵強ケレハ以テ國ヲ富マスヲ得可シト云フ可キ乎。今日ノ世界ハ富以テ兵ヲ支配ス可キモ。兵以テ富ヲ支配スルノ世界ニアラス。若シ論者ノ言ノ如ク。富ハ兵ヲ支配スルカ故ニ兵モ亦富ヲ支配スト云ハ。世界ハ山ヲ含ムカ故ニ山ヲ指シテ是レ世界ナリト云フヲ得可キ乎。犬ハ動物ナルカ故ニ動物ハ即チ犬ナリ。人モ。猫モ。鼠モ亦犬ナリト曰フヲ得可キ乎。世豈ニ此ノ如キ奇怪ナル論法アラシヤ。彼ノ武備生産ノ二主義カ決シテ兩立ス可キ者ニアラサルコトハ吾人既ニ之ヲ陳述シタリ。然ルニ論者ハ一

方ニ於テハ冗官ヲ汰ス可シ。不急ノ土木ヲ廢ス可シ。地稅ヲ減ス可シト疾痛慘怛。彼ノ舜カ歷山ノ野ニ犁ニ倚テ佇ミ。憂天ニ號哭シタルカ如ク嘆訴スレモ。却テ一方ニ於テハ海陸軍ヲ擴張セサル可ラスト勸告スルハ何ソヤ。ソレ海陸軍ハ何ニヨリテ之ヲ擴張スル乎。唯租稅ヲ増加スルニヨリテ之ヲ擴張スルノミ。一方ニ於テハ之ヲ増加セシメテ促シ。一方ニ於テハ之ヲ減少セシメテ促ス。縱令政府ノ諸公ニシテ神通自在ノ大能力ヲ有スルモ決シテ能クスル所ニアサル可シ。ソレ東去西來ノ二舟子ヲシテ共ニ順風ノ澤ニ浴セシメントスルハ全智全能ノ上帝スラ。之ヲナス能ハサルニアラスヤ。論者過矣。」

或ハ曰ク一國ノ光榮ヲ維持スルニハ實ニ兵備ヲ假ラサル可ラス。我輩カ雄大精細ナル兵備ヲ整理スルハ直ニ之ヲ以テ外國ニ向テ開戰ヲ挑メント欲スルニモ非ス。又タ一國ノ獨立ニ直ニ差支アルカ故ナルニモ非ス。唯數百ノ兵營ヲ國中ニ設ケ三里ノ城。七里ノ廓。飛鳥モ越フル能ハサルノ堅固ナル壘柵ヲ築キ。砲臺ヲ設ケ。數十艘ノ甲鐵艦ハ旭日ノ旗章ヲ五大洲各地ノ港灣ニ翻々タラシメ。以テ世界万邦ニ向ツテ我カ日本アルヲ知ラシメ。我カ日本ノ侮ル可ラサルヲ知ラシメ。我日本ノ尊敬ス可キヲ知ラシムルハ亦愉快ナラスヤ。」ト吾人モ固ヨリ之ヲ愉快ナリト思ハサルニアラス。然レモ論者ノ言ノ如ク果シテ兵備ヲ以テ一ノ驕奢品ナリトセハ吾人ハ容易ニ其論ニ與ミスル能ハサルナリ。ソレ驕奢品ナルモノハ必需品ノ需用ヲ飽カシメタルノ後ニ於テス可シ。未ダ茅屋ノ中ニアリテ大門高墻ヲ作ルモノアラス。未ダ飢餓ニ瀕シテ羊肉。葡萄酒ヲ沽フモノアラス。未ダ一國ノ生活スラ満足ニ維持スル能ハスシテ國威ヲ輝カシ。外人ノ尊敬ヲ博セントスルモノハアラサル可シ。况ンヤ武備ナルモノハ之ヲ驕奢品トシテ考レハ尤モ不廉高直ナル代物ナルニ於テオヤ。ソレ驕奢品ハ必需品ノ後ニ於テシ。高直ナル驕奢品ハ廉直ナル驕奢品ノ後ニ於テスルハ是レ經濟的自然ノ順序ナリ。然ルニ論者ハ法外ニモ之ヲ顛倒セント欲スルカ。ソレ「武士ハ食ハテド高楊枝」トハ實ニ封建武士ノ氣風ヲ穿テタルノ俚諺ナリ。而シテ論者ハ我邦ヲシテ此ノ貧乏武士ヲ學ハシメント欲スル乎。嗟呼論者モ亦封建武士ノ子孫ナル哉。

之ヲ要スルニ今日ハ我國ハ實ニ新舊日本ノ戰場ニシテ政治。宗教。文學。教育。學問。生活。感情。思想。ハ上ニ到ル迄一トシテ其觸着アラサルハナク。之ヲ一國ノ上ニ於テ觀察

スルモ。一國ノ戦争ハ恒ニ新舊ニ主義ノ戦争ナリ。之ヲ一地方ノ上ニ於テ觀察スルモ。之ヲ一家ノ上ニ於テ觀察スルモ。之ヲ一身ノ上ニ於テ觀察スルモ。皆然リトス。此ノ如クニ主義ノ戦争ハ恰モ波斯古代ノ神學者ガ解説ノ如ク。二個敵對ノ神祇ハ廣大ニ瀾リ。精微ニ入り。如何ナル瀾大ナル物胚ノ上ニ於テモ。如何ナル緻密ナル極微分子ノ中ニ於テモ。共ニ存セサル所ナク。共ニ在ラサル所ナク。共ニ觸レサル所ナク共ニ戰ハサル所ナキカ如キヲ見ルナリ。然ラハ則チ此戦争ノ結局ハ如何。

若シソレ武備主義ヲ以テ。貴族社會ヲ以テ。我一國ノ生活ヲ保チ。万国ト對立スルヲ得ハ。奚ソ我國ノ固有ニシテ若カモ得意ナル軍隊組織ヲ顛覆スルヲ要センヤ。奚ソ維新大改革ヲナスヲ要センヤ。奚ソ字内ノ形勢ヲ洞察シテ武備主義ヲ一變シテ生産主義トナシ。貴族社會ヲ一變シテ平民社會トナスノ端緒ヲ啓クヲ要センヤ。苟モ我今日ノ復古論者ノ言ノ如クセハ赫々タル維新ノ功業ソレ焉クニアル。吾人ハ嘗テ維新ノ際ニ於テ幕府ノ參謀原仲軍ノ言ヲ聽キ。實ニ慨然タラセル能ハス。

自ニ余入京。三易。歲。變故百出。殆非人力所能爲。病床不レ寢。深考其故。始知天地

間。有。自然。之。大。勢。循。環。於。冥。々。之。間。而。其。潛。運。默。移。常。出。人。意。之。表。處。其。時。當。其。局。或。有。不。及。知。者。知。而。不。及。制。者。此。固。難。與。俗。士。共。談。焉。因。以。歎。歎。者。久。之。

ソレ天下ノ大勢ハ幕府ノ未タ倒レサル。封建社會ノ其勢力ヲ維持シタル。即チ日本鎖國ノ堤防尙存在シタルノ時ニ於テスラ。或ハ知ルニ及ハサルモノアリ。或ハ知テ制スル能ハサルモノアリ。然ルニ今ヤ天破レ。地驚キ。滔々タル洪水ハ天ニ漲リ。山トナク。川トナク。城トナク。市トナク。水天茫茫。唯タ瀾飛ヒ。濤舞フ。今日ニ於テ字内ノ大勢ニ抗セントスルソレ難カラスヤ。

ソレ世界ノ氣運ハ奔リテ止マサルモノナリ。天下ノ大勢ハ光陰ソ潮流ト共ニ動テ止マサルモノナリ。故ニ二十年前ニ於テ我邦ヲ刺衝シタル天下ノ大勢ハ。今日ハ更ニ一倍ノ勢力ヲ以テ刺衝スルモノナリ。二十年前ニ於テ維持スル能ハサリシ武備主義。貴族社會ハ今日ニ於テ更ニ一層維持スル能ハサルモノナリ。ソレ上流ニ於テ驅止スル能ハサル水勢ハ下流ニ於テハ尙之ヲ驅止スル能ハサルニアラスヤ。ソレ二十年前ノ大勢ハ即チ今日ノ困難ナリ。二十年前ノ困難ハ即チ今日ノ困難ナリ。昔日ノ改革ノ時代タルカ如

ク、今日ハ實ニ改革ノ時代ナリ。
 然ルニ彼ノ我邦ノ人士ハ小成ニ安ンシ。小康ニ泥ミ。自ラ揚々然トシテ得タリトシ。我
 事業終レリ。殘軀天所レ許。不レ樂亦如何ト謠フモノアリ。而シテ奚ツ知ラン。其腦中ノ魔
 鬼ハ跳梁シテ以テ渠輩ヲ驅テ復古ノ事業ヲ行ハシメント欲スルヲ。嗟呼日本人ヨ滿
 足スル勿レ改革ノ事業ハ未ク半途ニタモ到ラサルナリ。舊日本ハ既ニ去レリト思フ勿レ
 今日ノ社會ヲ支配スル重ナル部分ハ凡テ是レ舊日本ノ分子ナリ。汝若シ之ヲ疑ハ、乞フ
 之ヲ汝ノ腦中ノ魔鬼ニ問ヘ。

第十六回 將來ノ日本 (結論)

嗟呼吾人カ我將來ノ日本ヲ論セントスルハ豈ニ又止ムヲ得ンヤ。吾人ハ實ニ現今ノ我
 社會ノ有様ヲ觀察シテ之ヲ論スルノ止ム可ラサルヲ感スルナリ。ソレ日本ノ將來ハ如
 何。如何ニナル可キ乎。如何ニナサ、ル可ラサル乎。吾人ハ我カ將來ノ日本ハ固ヨリ多

三動日地難第
 一籌論議有秩
 序、而整然不紊、

事ナリト雖モ。其第一急務ハ一國ノ生活ヲ維持スルニアルヲ陳シタリ。而シテ其生活
 ノ手段ハ多端ナリト雖モ要スルニ武備生産ノ二主義ニアルヲ陳シ。而シテ其手段ノ
 相違ハ一國ノ氣風。品格。制度。文物。政治。經濟。教育。文明等ニ大關係アルモノナルヲ
 陳シタリ。此ニ於テカ吾人ハ一歩ヲ進ミ。我邦ノ生活ハ何ノ主義ヲ以テ維持ス可キ乎
 ノ問題ヲ解説セント欲シ。敢テ之ヲ速了臆斷ニ附セス。先ツ之ヲ世界ノ境遇ニ質シタ
 リ。而シテ世界ノ境遇ハ實ニ生産的ノ境遇ナルコトヲ發明セリ。續テ之ヲ天下ノ大勢ニ
 質シタルニ。天下ノ大勢ハ實ニ平民主義ノ大勢ナルコトヲ發明セリ。吾人ハ更ニ眼孔ヲ
 我邦ノ一局部ニ轉シテ觀察シタルニ實ニ我邦現今ノ境遇ハ尤モ生産的ノ境遇ニ適シ。
 我邦現今ノ形勢ハ尤モ平民主義ノ大勢ナルコトヲ發明セリ。即チ我邦現今ノ狀勢ハ此
 等ノ境遇勢力ノ重圍ノ中ニ陥リタルコトヲ發明セリ。吾人カ我邦ノ將來ヲトスルノ材
 料ハ既ニ漸ク完備シ。而シテ吾人カ此ノ材料ヲ綜索考究シタルハ尤モ公明正大ナルヲ
 信矣。然ラハ則チ吾人ハ此ノ材料ニヨリテ直ニ吾邦ノ將來ヲトスルノ決シテ思想迷說
 タラサルコトヲ信スルナリ

ソレ然リ。吾邦ノ將來ハ如何ニナル可キ乎。吾人ハ之ヲ斷言ス。生産國トナル可シ。生産機關ノ發達スル必然ノ理ニ從ヒ。自然ノ結果ニヨリテ平民社會トナル可シト。吾人ハ縱令我カ人民カ一舉手。一投足ノ勞ヲ取ラサルモ。現今ノ洪水ハ我邦ヲ驅リテ此所ニ赴カシム可シト信スルナリ。又縱令劍ヲ挺シ。戈ヲ揮フテ之ニ抗敵スルモ。又必ス現今ノ洪水ハ一層ノ猛勢ヲ激シテ此所ニ赴カシム可シト信スルナリ。蓋シ自然ノ勢ニハ敵モナク。莫モナク。如何ナル忠實ナル味方モ。執着ナル敵讐モ。皆其嚙々タル大翼ノ中ニ籠絡シ。皆之ヲ其目的ヲ達スル一ノ利器トナスモノナリ。ソレ英國ノ革命ヲ激成シタルモノ奚ソ獨リミルトン。ハンブデン。ビーム輩ノミナランヤ。彼ノ查斯王彼レ自身コソ其尤モ張本人ナル可シ。維新ノ改革ヲ煽動シタルモノ奚ソ獨リ佐久間。吉田。西郷輩ノミナランヤ。彼ノ井伊大老ノ如キモ。亦一ノ發起者ト云ハサル可ラス。之ヲ助クルモ以テ此勢ノ爲ニ制セラレテ其利器トナリ。之ニ抗スルモ以テ此勢ノ爲ニ制セラレテ其利器トナラサル可ラス。既ニ人力ノ以テ如何トモナス可ラサルヲ知ラハ軍口之ヲ如何トモナカハルノ優レルニ如カサルナリ。

然ラハ則チ我カ將來ノ日本ナルモノハ如何ニナサル可ラサル乎。此ノ自然ノ大勢ニ從ヒ。之ヲ利導スルニアル而已。故人曰ク達人能明了。渾順ニ天地勢ト實ニ然リ。唯チ此ノ天地ノ勢ニ順フニアルナリ。

吾人ハ固ヨリ草莽ノ一書生ニシテ天下何人ニ向ツテモ何ノ求ムル所ナク。何ノ不平ノ事モアラス。何ヲ苦ンテカ自ラ好ンテ悲壯慷慨。洛陽ノ少年ヲ學フヲ要センヤ。吾人ハ固ヨリ滔々タル天下ト共ニ諸公ヲ趁フテ中興ノ天地ヲ頌歌シ。其恩澤ニ浴スルノ便宜ナルヲ知ラサルニ非ス。朝韓暮改。雲ノ漂フカ如ク。風ノ來ルカ如ク。唯世情ニ媚ヒ世論ニ雷同スルノ安逸ナルヲ知ラサルニ非ス。劍ニ仗テ千里ヲ橫行シ。其主義ノ邪正ヲ問ハス。其手段ノ善惡ヲ論セス。唯行險ノ事業ヲナスノ快活ナルヲ知ラサルニ非ス。吾人ハ實ニ世ニ容レラレント欲セハ他人ノ思フ如ク思ヒ。他人ノ言フ如ク言ヒ。他人ノ行フ如ク行フノ待策タルヲ知ラサルニ非サントモ唯如何ンセン。吾人ハ天ヲ欺キ。人ヲ欺キ。且ツ自個ヲ欺ク能ハサルヲ如何ンセン。假令吾人コソ自ラ欺カント欲スルモ。彼ノ愛國義膽ナル吾人カ先輩ニ對シテ軍口内心ニ耻ルコトナカランヤ。是レ吾人カ今日ニ於テ不

三耶曰不與人
同聲笑。邈然自
得流俗外。若步
橋。半。誠。慮。亦。不
凡。僕。雖。驚。亦。竊
有所。助。願。與。此
流。人。從。社。會。事。

肯ヲ顧ミス。戰ヲ拔キ。隊ヲ成シ。區々ノ意見ヲ陳述セント欲スル所以ナリ彼ノブライ
ト氏ハ曰ク

余ハ之ヲ信ス。苟モ徳義ノ基礎ニヨリテ立ツニ非サルヨリハ國民ノ永久不滅ナル隆
盛繁榮ハ決シテ望ム可ラサルコトナリ。余ハ武力ノ雄大ナルト。武備ノ赫々タルトニ向
テ更ニ意ヲ注クコトナシ。唯余カ意ヲ注キ造次顛沛モ恒ニ忘ル、能ハサルモノハ余
ト共ニ生活スル人民ノ境遇之レナリ。意フニ大英國ニ於テ何人ト雖モ。未タ余カ如ク
帝冠及王政ヲハ不敬ノ語ヲ以テ之ヲ語ルコトヲ欲セサルモノアラサル可シ。然レト
モ苟モ人民多數ノ愉快。満足。幸福。ノ公平ナル分配アラズンハ彼ノ金冕。鐵冠。大蓋。
勳章。燦爛タルモ。武備ノ綺美ナルモ。廣大ナル殖民地モ。雄巨ナル帝國モ。余ハ眼中
ニハ尙一毫モニモ過キサルナリ。宮殿。樓閣。城砦。公堂。會館ノ巍々タルモ。之ヲ以テ
國民トハナサルナリ。蓋シ國民ナルモノハ。如何ナル國ニ於テモ茅屋ノ中ニ住スル
モノナリ。故ニ若シ汝ノ憲法ノ恩光ハ此ノ茅屋ノ中ニ輝キ。汝ハ立法ノ美。汝ノ政略
ノ卓絶ナルハ此茅屋ノ中ニ住スル人民ノ感情ト境遇。即チ汝カ恒ニ政府ノ職分ヲ盡

サ、ン、カ、爲、ニ、恒、ニ、之、ヲ、手、本、ト、シ、テ、學、ハ、サ、ル、可、ラ、サ、ル、所、ノ、人、民、ノ、感、情、ト、境、遇、ニ、適、中、ス、ル、ニ、非、ザ、ル、ヨ、リ、ハ、實、ニ、一、毫、毛、モ、過、キ、サ、ル、ナ、リ、

吾人カ心事實ニ此ノ如シ。吾人ハ我カ皇室ノ尊榮ト安寧トヲ保チ玉ハンコトヲ欲シ。我
國家ノ隆盛ナランコトヲ欲シ。我政府ノ擔保ナランコトヲ欲スルモノナリ。之ヲ欲スルノ至
情ニ至リテハ敢テ天下人士ノ後ニアラサルコトヲ信ス。然レトモ國民ナルモノハ實ニ茅
屋ノ中ニ住スル者ニ存シ。若シ此國民ニシテ安寧ト自由ト幸福トヲ得サル時ニ於テハ
國家ハ一日モ存在スル能ハサルヲ信ズルナリ。而シテ我カ茅屋ノ中ニ住スル人民ヲシ
テ此ノ恩澤ニ浴セシムルハ實ニ我カ社會ヲシテ生産的ノ社會タラシメ。其必然ノ結果
タル平民的ノ社會タラシムルニアルコトヲ信スルナリ。即チ我邦ヲシテ平和主義ヲ採リ
以テ商業國タラシメ平民國タラシムルハ實ニ我國家ノ生活ヲ保チ。皇室ノ尊榮モ。國家
ノ威勢モ。政府ノ鞏固モ。以テ遙々タル將來ニ維持スルノ尤モ善キ手段ニシテ國家將來
ノ大經綸ナル者ハ。唯此ノ一手段ヲ實踐スルニアルヲ信スルナリ。余ハ既ニ之ヲ信ス。
豈ニ黙々タルヲ得ンヤ。縱令世ノ吾人ヲ起ヒテ吾人ヲ罪ヒント欲スルモ。余ハ甘んシテ

其經ニルニ任セ。其罪スルニ任スルナリ。何トナレハ吾人カ心事ハ傲トシ白日ノ如ク。早晚必ス天下ニ表白スルノ時節アルヲ信スレハナリ。只吾人ハ之ヲ恐ル若シ我國人ニシテ天下ノ大勢ニ從フニ遲疑セハ彼ノ碧眼紅鬚ノ人種ハ波濤ノ如ク我邦ニ侵入シ。遂ニ我邦人ヲ海陸ニ驅逐シ吾人カ故郷ニハアリアン人種ノ赫々タル一大商業國ノ平民社會ヲ見ルニ到ランコトヲ荷モ之ヲ恐レハ願クハ神速雄斷。維新大改革ノ猛勢ヲハ百尺竿頭ノ外ニ一轉セヨ。吾人若シ泰西人ノ爲ス所ヲ爲ス能ハスニハ彼ノ泰西人ハ吾人ニ代リテ其爲ス所ヲ爲サント欲ス。此ノ時ニ及ンテ苦言痛語ノ洛陽少年ヲ追想スルモ豈ニ又タ晩カラスヤ

將來之日本 完

本書之批評

一書十六篇世界ノ大勢ヲ推シテ我國ノ趨向ヲ論シ既往ノ事迹ヲ考ヘテ將來ノ運命ヲトス識慮超邁文勢奔放コブデ集テ讀ムガ如ク東坡策ヲ誦スルガ如シ其辨雄快其說純潔世界ノ冕旒ヲシテ茅屋ヲ仰視セシメ鐵馬ヲ驅ルノ英豪ヲシテ牙籟ヲ握ルノ商賈ヲ跪拜セシメントス平民主義ノ爲メニ光焰ヲ吐クノ奇書ト言フベシ僕亦平生此主義ヲ持シ機ニ觸レ時ニ應ジテ之ヲ發揮セズンバアラズ然レドモ數年ノ論議遂ニ此一書ノ世ヲ動かスニ如カザルヲ知ル著者ノ逸才欽羨スベキ哉一朝此好書ト才友トヲ得ルヲ悦ビ感ヲ書シテコレヲ復ス

二十年一月

島田三郎 妄批

此篇也一小冊子耳。而其出于世也。人噴々稱德富君之才名何其盛也。余受其贈。時適患眼不能自讀。使人朗誦。閉目聽之。其文於時流外。別出機軸。浩々蕩々如江河一決直瀉千里者。豈深學馬高禮氏之法。而能得其神髓者耶。何其筆之雄且健也。而其論明快卓拔。宇內

今日之形勢。我國將來之境遇。說得痛切。使讀者有所自省矣。况方今巴奈馬有鑿運河者。加奈陀有通鐵道於東西。開航路於太平洋者。則東洋他日之勢可以推知矣。而君今日之論或將有驗焉。已有此論。而又有此筆。則人之噴々稱君之才名不亦宜乎。雖然。賴子成有言。云謂我才子未悉我者也。謂我能刻苦者真知我矣。嗚呼君之才固敏矣。然亦可以見其刻苦矣。今也發兌未數月。既有再刷之舉。君乃屬余評。而余眼疾未癒。僅書數言於卷末。以塞責。獨憾不得詳閱而細評之耳。

明治二十年一月中浣

小池靖一 識

民衆の多き建國の久しき西歐の強國と雖ども何を以てか我に加へん。然り而して國勢蒸蒸日上振はず政治、經濟、法律、文藝、一も彼か右に出る者なきは何そや。既往の施設皆亦其當を得ず上下頭を聚めて不動世界に昏睡せるを以て也。唯た既往は追ふ可らず。世人若し眼を將來に注て既往の非計を一洗更革せば轡を駢へて西歐の強國と角逐するの日あるべきのみ。是れ吾か友徳富君の既往に遡て徒らに死兒の齡を算することを爲さ

ず。遠く將來を觀察して富強の新策を講究し此經國の一大文字を著はせる所以ある乎。其議論の精確にして文に奇氣あるが如きに至りては世間自ら公評の在るあり。今ま之を言はずして可あり。感佩の餘一言を記し卷尾に附す。

丁亥一月夢香洲梅兒塚畔の假居に於て

尾崎行雄 識

余が先師ニ米人ニテ工兵大尉エル、エル、チエーンスナル人アリ深ク我國人ヲ愛シ厚ク我國ノ前途ヲ慮ルノ心アリシ曾テ万国ノ歴史ヲ教授スルノ際談偶々我日本ノ將來ニ及ブ曰ク歐洲諸國今ヤ頽リニ兵備ノ擴張ヲ圖ル是レ隣國互ニ覬覦スルノ致ス所ニ止ムヲ得サルノ勢ナリ幸ニ日本ハ遼東ナル地球ノ一隅ニ位シ四境皆海。強國ト其境ヲ接スルニ非ス隣國ト多年ノ宿怨モナシ何ソ歐洲諸國ニ效テ汲々兵備ヲ擴張スルニ及パン且ツ日本ハ南ニハ濠洲アリ西ハ支那 滿洲 シベリヤト一葦水ヲ隔テ、境ヲナシ東ニハ太平洋ヲ越ヘテ北米合衆國アリ實ニ天然ノ商業國ト云ハサル可ラズ宜シク米國ノ國是ニ倣ヒ兵備ハ僅カニ内亂ヲ防止スルニ止メ成ルベク外國トノ交渉ヲ避ケ専ハラ内地ノ

改其テ國リ生産的ノ主義ニヨリ殖産工藝商業ヲ盛ニシ以テ國家ノ繁榮ヲ期スベシト當
 時余深ク之ヲ心ニ銘シ以テ我國ノ將來ニ最モ必要ナル經國ノ論トナセリ
 爾來爰ニ十數年益其論ノ適切ナルヲ覺フ此頃我カ友猪一郎徳富君「將來之日本」ナル書
 ナ著ハシ世界ノ境遇天下ノ大勢及ビ我國ノ形勢ヨリ論下シテ我國ノ將來ハ生産國トナ
 リ平民社會トナルベシト判定シタリ議論滔々一瀉千里江河ヲ決シテ東ニ奔ルカ如ク沛
 然トシテ之ヲ禦ク能ハサルノ勢アリ實ニ讀者ヲシテ手ノ舞ヒ足ノ蹈ム所ヲ覺ラザラシ
 ム豈ニ我國近來ノ一大文章ト云ハザル可ケンヤ而シテ其論旨タルヤ余カ生平ノ宿論ト符
 合シ尙ホ大ニ之ヲ擴充スル所アリ余之ヲ讀ンテ我國目下ノ形勢ニ適切ナル經世ノ文ナ
 ルヲ信ズ今ヤ我國ハ實ニ舊ヲ去リ新ニ就キ彼此更迭セントスルノ際ナルモ封建時代武
 士社會ノ殘夢尙ホ未ダ醒メヤラデ頻リニ尙武ノ氣風ヲ復興シ一ニ武力ニヨリテ我國光
 テ世界ニ放タント欲スル者少カラス之ニ加フルニ曠年歐洲諸國ニテハ益兵備ノ擴張ヲ
 圖ルヲアルヨリシテ我國ノ輿論モ自然之ガ影響ヲ蒙リ兵備擴張論ハ上下一般ノ贊成ヲ
 得愈其猖獗ヲ逞フシ將サニ全國ノ富ヲ擧ゲテ悉ク陸海軍ノ需要ニ充サントスルノ勢ア

リ豈浩歎ニ堪フベケンヤ且ツ維新ノ始ノ我國ノ方向ハ專ハラ自由平等ナル平民主義ニ
 傾キ百尺竿頭將サニ一步ヲ進メテ泰西ノ民主國ニ效ハントセシモ時勢ノ未ダ來ラザル
 所アリシニヤ再ビ反動ノ氣運トナリ躊躇進ム能ハザルノ勢ヲ爲シ保守ノ精神尙ホ猖獗
 ナ逞フセリ此際民間ニ於テハ民權論ヲ唱ヘ自由ヲ説キ我國ノ改進ヲ圖ラントセシモノ
 少カラスト雖モ其説ク所自家撞着前後矛盾民權論ト國權論ヲ併ヒ唱ヘ平等主義ト兵備
 擴張ヲ并セ説キ口ハ泰西ノ新主義ヲ唱ヘ心ハ尙ホ東洋保守ノ舊精神ナル等恰モ身ニ
 洋服ヲ纏ヒ足ニ雪駄ヲ穿ツガ如キ異相ヲ現ハスモノ少カラス之レ蓋シ未ダ世界ノ大勢
 ニ明カナラス未ダ我國ノ形勢ヲ詳ニセザルヨリ我國前途ノ方向ヲ定ム能ハザルノ致ス
 所ニシテ深ク咎ムルニ足ラザル也徳富君ノ此著ヤ實ニ始メテ我國前途ノ方向ヲ學理的
 ヨリ示シタル者ナリ何ソ輕々之ヲ看過スルヲ得ン其書ノ初版已ニ售レ盡シ將ニ之ヲ再
 版ニ附セントスルニ當リ余ニ一言セノコトヲ請ハル余敢テ之ヲ辭セズ聊感スル所ヲ記ス

明治二十年一月

小崎 弘道 識

世事ヲ調理セント欲スル者ハ何事ニヨラズ先ツ豫メ其到着スヘキ結局ヲ洞察スルガ上ニ又此ノ結局ニ至ル迄ノ途中ノ有様ヲモ洞察セサル可ラズ最終結局ノ覺悟ハ固ヨリ必要ナガラ結局最後ニ至ルノ途中ニ處スルノ覺悟ヲ爲スコト亦極テ必要ナリ故ニ豫メ最終結局ノ有様ヲ知ルノミナラズ最終結局ニ至ル途中ノ有様ニ通スルヲ以テ之ヲ世務ニ通スルノ士ト云フ今マ舟ニテ利根川ヲ下ル者アランニ川ノ源ハ北ニ發シ南ノカタ海ニ終ルノ大勢ヲ知ラサレハ第一川船ニ乗リ込ムノ目的ハ立タヌ等ナリ去リ乍ラ同川ガ海ニ達スル迄ハ其途中ニ種々ノ曲折迂回アリテ時トシテハ西ヨリ東ニ下ルコトモアリ又東ヨリ西ニ下ルコトモアリ或ハ其ノ最後到着ノ方角ナル南ヨリ其上流ノ方角ナル北ニ向テサヘ逆行スルカ如キコトアリ然レハ利根川ヲ下ル者ハ先ツ北ヨリ南ニ流ル、ト云ヘル大勢ト其最後ノ到着所ヲ知ルト同時ニ又其ノ途中ニテモ此ノ川筋カ東西南北種々様々ニ曲折シ居ルコト明知シ之ニ應シテ船ヲ操ルコト實際ハ甚テ大切ナル者ナリ然ルニ若シ只其ノ大勢ト其川ノ到着所ノミヲ知ルモ其途中ニ種々ノ曲折アルヲ問ハズ最初ヨリ其ノ大勢ト最後ノ到着所トノミヲ目掛ケ一直線ニ北ヨリ南ニ向ヒ無遠慮ニ乗リ下ランコトハ

一二町モ行カサル内ニ忽チ洲ニ乗リ上ルカ畑ニ乗リ上ルカ一里半道行カサル内ニ跡ヘモ先ヘモ行カレザルノ難義ニ陥ルベシ左レバ川源ノ北ニ發シテ南ノカタ海ニ終ルノ大勢ト最終結局ノ到着所ヲ知ラサレハ利根川ヲ下ルコト能ハザルハ勿論ノコト乍ラ其途中種々ノ曲折セル川筋ニ應シテ舟ヲ掉サスコト亦一層必要ナル者ナリ若シ否ラサレハ其大勢ヲ知り結局ヲ知り居ルコトハ却テ害ヲ爲スノミナルベシ斯ノ如クナランヨリハ鯨川筋ノ大勢ヲバ知ラズモ尙ホ其目前ノ曲折ニ注意シ我船ヲ洲或ハ畑ニ乗リ上ゲサル様ニ彼方此方ニ船ヲ操リ知ラズ、安全ニ夫ノ大勢ニ從テ其到着スヘキ所ニ到着スルノ勝レルニハ如カサルベシ右ノ比喩ハ大抵ノ世事ニ適合スヘキモノニテ世事ヲ調理スル者ノ第一ノ心得ハ先ツ其最後結局ノ有様ヲ洞察シ又第二ニハ此最終結局ニ至ル途中ノ小曲折ヲ明カニシ洲渚ニ舟ヲ膠セシメサル様精密ニ注意スルニアリ百年ノ後ハ我身軀ハ一タビ死亡スベキ最終結局ノ運命ヲバ何人ト雖モ知リ居ラサル者ナシ然レモ最終結局ノ死亡ニ至ル途ノ途中ハ甚テ長キコトニシテ種々ノ曲折ニ遭逢シ之ニ應シ幾千百ノ苦樂ヲ爲サシバナラヌガ則チ人間世界也我々世人カ既ニ最終結局ヲバ知り乍ラモ今日現在

種々ノ辛苦ヲ爲スハ則チ此途中ノ曲折ノ甚ク長キガ故ノミ又千万年ノ後ハ人智モ進ミ
 争ヒモ止ミ盜賊モ無クナルヘキ世ノ中アルベシトハ世人與ニ想像シ居ル最終結局ノ有
 様ナリ去リ乍ラ其處ニ至ル迄ノ途中ニハ種々ノ曲折迂回アリテ甚ク長ク千年トモ五百
 年トモ定メ難キカ故ニ我々ハ其途中ニ苦シミ種々ノ趣向ヲ運ラシ居ル譯ナリ萬事都ラ
 斯ノ如ク其最終結局ヲ知ルノ難キニ非ス之ニ違スル途中ノ曲折迂回ニ處スルノ甚ク難
 キナリ今若シ世人ニ向ヒ汝ノ最終結局ハ死亡スベキモノナリ然レハ只此ノ用意ヲノミ
 爲スベシト云ハハ人皆之ヲ笑ヒ我々モ終局ハ承知シ居レド終局迄ノ道中甚ク長ク其間
 ノ爲ニ我々ハ苦勞シ居ルコトナリ若シ今日只今ガ死亡ノ終局トアラバ御差圖ニモ從フヘ
 キナレド五年ナルヤ十年ナルヤ死亡ノ終局ニ違スル時日ノ知レサル内ニ中途ノ今日ヨ
 リ早ク死亡ノ覺悟ノミハ爲サレヌ者ナリトコソ答ルナルベシ又最終結局ハ盜難モナキ
 世ノ中トナルコトナレハ汝ガ家ノ戸締ヲ嚴重ニヒシヨリ他ノ事ニ盡力セヨト説ク者アラ
 ハ世人ハ又必ズ答ヘテ云ハシ最終結局ハ然アルヘキコトナリトモ何時其目的ニ達スルヤ
 其年月ノ定マラサル以上ハ中途ノ今日ニテ一日モ盜難ノ油斷ハ爲シ難シ然ルヲ何時ト

モ知レヌ盜難ナキ最終結局ノ時代アレハトテ今日ヨリ盜難ノ防禦ヲ怠レトハ實際ニ所
 詮行ヒ得ラレサルコトナリトコソ冷笑スルノ外勿ルベシ若シ又前ノ例ニ遡リ利根川ヲ下
 ルノ舟子ニ向ヒ川流ノ大勢ハ北ヨリ南ニ流ル、カ故ニ只此ノ大勢ノミヲ見當テトシテ
 船ヲ一直線ニ最終結局ノ所ニ向ケテ行クベシト教ヘナハ舟子ハ無論斯ク答ソルナルベ
 シ汝ノ命ニ從ハハ今一町モ行カヌ内ニ船ハ直ニ汀渚ニ乗リ上ケテ進ムコト能ハサルベシ
 ト是等ハ皆ナ世人ガ日々目撃シ居ル所ノ實例ニテ若シ只事物ノ最終結局ヲノミ志シ其
 途中ノ迂回曲折ニ應セサルハ一日モ此世ハ立行カレヌ者ナルヲ知ルニ足ルヘキ者ナ
 リ然レハ世事ヲ謀ル者ハ單リ其最終結局ノ到着所ヲ見抜クノミナラズ之ニ到着スヘキ
 途中ノ曲折迂回ニ應シテ之ニ備ヘ遂ニ幾多歲月ノ後其最終結局ノ地ニ達スルヲ勉ムヘ
 キモノナリ

徳富兄ノ此書ヲ著スヤ其意專ラ世事ノ最終結局ヲ指示スルニアリ曰ク武備世界ハ消滅
 シテ生産世界ニ全變スヘシ曰ク貴族世界ハ消滅シテ平民世界ト全變スベシト故ニ兄ノ
 本意ヲ了セサル者或ハ疑惑シテ曰ハン、一タビ死亡スルノ最終結局ハ我々元ヨリ之ヲ

知ル唯夫迄ノ生涯ノ甚ク長キヲ如何セム盜難ノ無キ黄金世界アルヘキ最終結局ハ我々元ヨリ承知ナレ其時節迄ノ道中ノ甚ク長キヲ如何セム、利根川ノ北ヨリ南ニ流ル、ノ大勢ハ我々元ヨリ之ヲ知ル唯其途中ニ小曲折アルヲ如何セム武備世界ノ生産世界ニ變スヘキ最終結局ト貴族世界ノ平民世界ニ變スヘキ最終結局ハ我々之ヲ承知シ居レ此最終結局ニ違スル迄ノ現世道中ノ甚ク長キヲ如何セン甚ク長キ道中ニ在テ之ニ應スルノ道ヲ怠リ只最終結局ノ覺悟ヲノミ爲サバ到底此世ノ立行カサルヲ如何セム、ト然レモ余ハ今徳富兄ノ爲ニ其冤ヲ辨セサルヲ得サルナリ兄ノ此書ヲ著ハス之ヲ其郷土ニ於テス讀者之ヲ記セサル可ラス凡ソ事物ノ最終結局ヲ知り又其途中ニ處スルノ方法ヲ明ニシ兩ツナカラ之ニ應スルノ道ヲ悉クス者ハ蓋シ上ノ上ナル者ナリ世間豈必ズシモ皆上ノ上タルノ人ノミナランヤ九州ノ地、燕趙悲歌ノ士ニ富メリト雖モ亦シ新世界ノ事業ヲ輕視シ中途ヲ認テ結局トナスノ弊ナキニ非ス是レ蓋シ徳富兄ノ此ノ著アル所以ナリ凡ソ新舊兩界ノ移變ニ當テハ世人ノ憂ヒ其最終結局ヲ知ラサルヨリ大ナルハ莫シ世事ヲ謀ル者ニ在テ亦之ヲ示スヨリ急ナル者ハ非サルナリ兄ノ自序ニ云フ兄ノ書ヲ

著ハス此ヲ以テ初メト爲スト然レハ先ツ世人ニ示スニ世事ノ最終結局ヲ以テス元ヨリ當然耳又何ソ怪マン余ハ兄ヲ知ル兄豈ニ徒ニ世事ノ最終結局ヲノミ舉示シ其ノ中途ナル現世ニ處スルノ手段ニ説キ及ハサルノ人ナランヤ余ハ斷シテ知ル兄ノ推理力ノ非凡ナル吾最終結局ヲ説テ長キ中途ノ今日ニ處スルノ活理ニ通セサルじよんぶらいと氏ノ徒弟タルカ如キ看ニ終ルノ人ニ非サルヲ、兄ノ後著ヲ見ルニ及ハス只本書ヲ以テ兄ノ心事ヲ盡クセリト爲ス者アラハ余輩ハ其甚ダ過マレルヲ辨ゼスンハアラサルナリ仁慈ノ教ハ人世調和ノ要具ナリ然レモ仁慈ヲ以テ社會ノ亂ヲ鎮セシ者古ヨリ果シテ幾人カアル只遠眼ノ士能ク仁慈ノ用ト活社會ヲ維持スルノ活理トヲ知ルノミ余ハ此書ヲ讀ム者ニ向テ其惑ヲ解クト同時ニ又徳富兄ノ爲ニ其後著ノ以テ世人ノ惑ヒヲ解クノ日アラント熱望セスンハ非ルナリ頃日、兄、余ノ拙評ヲ徵ス乃チ思フ所ヲ書シテ以テ寄焉

一月廿一日

矢野文雄

各新聞批評

毎日新聞、、、、社會ノ大勢ヲ推シテ日本ノ將來ヲ論シ其趨勢進路ヲ考案シタル者ナルガ奇也抄撰文章ハ和漢洋ヲ陶冶シ來リテ一種ノ新味ヲ具ヘ箇々雄麗字々飛舞ノ勢アリ紙數二百七頁ニ過キサルノ小冊子ト雖も毎篇結構ノ雄ナルニ至テハ之ヲ一大文字ト云フベシ、、、、氏ノ年齒未タ二十三四ニ過キスシテ此文章アリ昔者蘇氏浴ニ入りテ其文名忽チニ天下ニ振ヒタルヲ思ヘハ氏ニシテ出京シ筆陣ノ間ニ躍躍セハ東京ノ文苑ニ一名花ノ添フルニ至ルベシト思ハル

朝野新聞、、、、其十九世紀ニ於テ世界ハ一般ニ腦力ヲ逞スル有様ヲ叙スル所ノ如キ文章恰モ風雨ノ如ク殆ト暴舞ニ繁麗ルノ妙アリ人ヲシテ卷ヲ措ク能ハサラシニ實ニ近頃ノ著述中稀ニ見ル所ナリ

時事新報、、、、議論痛快文字雄壯近來ノ好文字ナリ

改進新聞、、、、氏八年尙ホ弱クシテ早ク已ニ才名都下ニ喧シ本書亦氏カ筆ニ成リ都下ニ來リ經濟雜誌社ニ附ノ發見シタル者ナリト云フ其滿腔ノ慷慨勃然トシテ禁スル不能達ニ此書ノ稿ヲ起サシメタルモノナリトハ讀者ノ一目以テ破ル所ナリ立論專ラ哲學的ノ理論ヲ奏テ、生産的ノ實學ニ就キ仔細ニ論證ヲ設ケタルモノナレハ昔々トシテ之ヲ家ニ見ルカ如シ説ノ當否ハ姑ク措キ又是レ近代ノ一文字ト評スヘキ好書ナリ

日々新聞、、、、我國過去ノ腦力世界ヨリ現今ヨリ將來ニ及ホスヘキ商業世界ノ變遷推移ノ情勢ヲ論シテ毫

毛瀾ラス所ナク殊ニ我國將來ノ現象ヲ推測スル一段ニ至テハ人ヲシテ氏ハ前腦裏ニ至リ至妙ノ天眼鏡ヲ具ヘ上帝カ未來ノ秘計ヲ覗フモノ有ルカト疑ハシム其文章ノ飛動風雨雷電ノ如クナルハ蓋シ餘技ナランノミ

報知新聞、、、、議論ノ壯快ナル文章ノ雄偉ナル亦近來ノ大文字ナリ

經濟雜誌、、、、立論切切ニシテ且ツ正確引證斬新ニシテ且ツ實之ニ加フルニ其文章ハ舊來ノ陳腐ヲ脱却シテ一種ノ新文字ヲ開キタルモノナレハ行文ノ間別ニ音ヲ可ラサルノ妙味アルヲ覺ユ蓋シ近來ノ一大珍書ナリト謂フ可シ

明治十九年十月七日版權免許
同年同月初版
明治二十年一月十一日再版屆
同年二月再版

定價金五十錢

著述者

熊本縣士族
德富猪一郎
東京赤坂區鹽南坂町
十五番地

出版人

熊本縣平民
柄本伊平
東京京橋區瀧山町
六番地警醒社內

發行所

經濟雜誌社
東京京橋區彌左衛門
町七番地

印刷所

秀英舍
東京京橋區西紺屋町
廿六七番地

賣 捌 書 肆

大坂心齋橋通北久太郎町	柳原喜兵衛
全 南壹丁目	松村九兵衛
全 本町四丁目	岡嶋 眞七
全 備後町四丁目	梅原 龜七
尾州名古屋本町八丁目	片野東四郎
東京日本橋區通一丁目	北島茂兵衛
全 通二丁目	稻田佐兵衛
全 通二丁目	小林新兵衛
全 通三丁目	丸屋 善七
全 神田區雉子町	興 論 社
全 芝區三嶋町	叢 書 閣
全 全 大神宮前	山中市兵衛
	牧野吉兵衛

經濟雜誌社發兌書目

田口卯吉著

○自傳 日本經濟論 全二册 價金三十五錢

此書ハ自傳及自傳後ノ真摯ヲ顯明シ經濟ノ弊ヲ顯明シ經濟ノ發展ヲ示シ自由貿易ニアルコトヲ論述シタルモノナリ

田口卯吉著

○手形之心得 全一册 價金十五錢

此書ハ英米二國ニ於テ手形發出ノ手續(配額)ノ都合(不渡)ヲ通知ノ方法並ニ裁判ノ模範等凡ソ手形ニ關スル一切ノ取扱いヲ網羅シタルモノナリ

英國マールホルム原著 田口卯吉譯 伴直之助譯

○萬國進歩之實況 第三卷迄發兌

右ハ千八百八十年(明治十三年)ニ至ルマテ萬國ノ進歩セシ實況ヲ統括シ各國財政通貨ノ制ヨリ海陸運送ノ多寡、海陸電信、飲道、鐵道、人口、貧富等、折モ社會ニ關係アルモノハ具ニ盡テ餘サズ加フルニ一々精製ナル統計表ニ繼テ解説シモノナリ

○英國金融事情 全一册 價金六十錢

右ハ原名「ロムバード・ストリート」ト題シ倫敦經濟雜誌記者故ウオルトル・ベイシホット氏ガロムバード街ノ實況ニ就キ英國金融ノ事情ヲ詳述シ英國銀行仕組ノ脆弱ナル

點ヲ指摘シテ之ヲ痛論シ且自家ノ考察ヲ述テ之ヲ救済スルノ策ヲ立タルモノニシテ讀者痛快專理明瞭ル世ノ高評ヲ博シタル書ナリ

小池清一著 金谷昭吉譯

○古代商業史 全一册 價金五十錢

右ハ英國學者ヒュムズ、ウヰリアム、ギルバート氏ガ發掘地ヲ銀行ノオリーターフォルド支店ノ支那人タリシ時オリーターフォルドノ文藝會ニ臨ミテ講述セシモノニシテ古代埃及希臘、ローマ、カルセーシ、及ビ羅馬ノ商業ヲ詳述セル書ナリ

英國マールホルム原著 島田三郎譯 兼竹澤太郎同譯

○英國憲法史 第三卷迄出版

此書ハ千七百六十年以來英國憲法ノ沿革ヲ記シ國王ノ特權ヲ論シ上下兩院ノ特權及ヒ構成政黨論身謀ノ自由立法ノ進歩等ヲ詳論シ卷末附スルニ同年間ノ憲法ニ關スル大事記一篇ヲ以テシタルモノナリ

敬愛中村治生序 田口卯吉譯 伴直之助譯

○經濟要義 全二册 價金四十五錢

右ハ英國倫敦大學校教授ケアチス氏ノ原著ニ依リ原名「ゼ、カラクター、エント、ロジカル、メソッド、オブ、ポリチカル、エコノミー」ト題シ經濟學ノ釋義及ビ其問題ノ論理法ニ關シテ精細ニ論述セルモノニシテ先人未發ノ卓見頗ル多ク眞ニ經濟學ヲ關スルニ欠クベカラザル書ナリ

- 時事評論 内外ノ時事ヲ簡明ニ評論スルモノナリ
- 國民之友 目下重要ノ問題ヲハ精確ニ詳論スルモノナリ
- 論說 社友ノ論文ヲハ選擇シテ之ヲ掲ク
- 特別寄書 本社ノ光輝ヲ加メカ爲メニ諸名士ノ卓論偉説ヲ乞フテ之ヲ掲ク
- 雜錄 新著ノ批評、諸新聞社説ノ批評、其他政治社會經濟及文學上ノ雜事

左ノ諸君ハ既ニ本社ノ特別寄書家タル事ヲ承諾セラレタリ

- 島田三郎君 植村正久君 高橋五郎君
- 中江篤介君 小崎弘道君 浮田和民君
- 田口卯吉君 尾崎行雄君 矢野文雄君
- 植木枝盛君 乘竹孝太郎君 竹越與三郎君

東京赤坂區櫻坂町五番地

民友社

二月三日

發行所

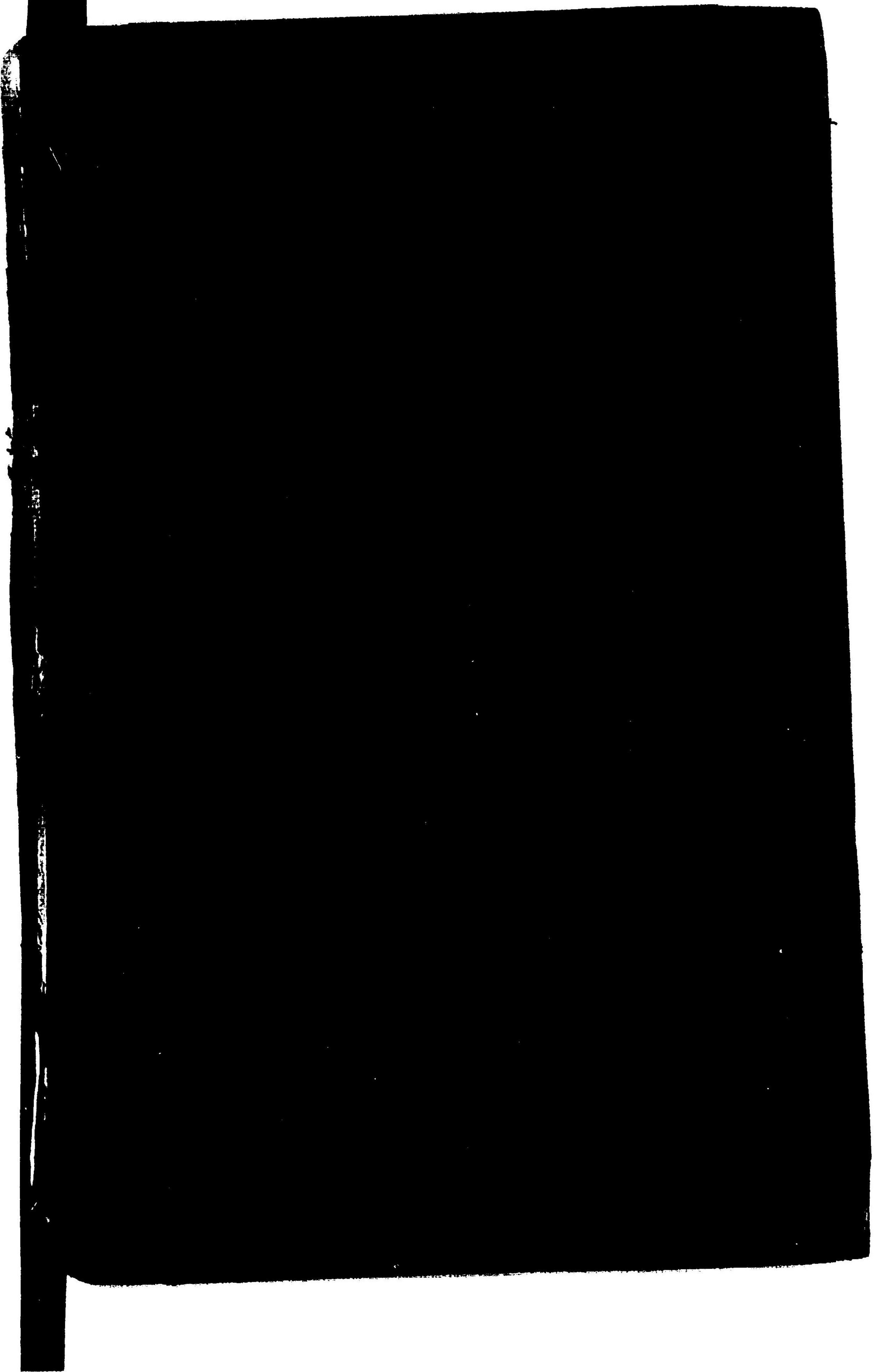
社主

湯淺治郎

編輯

徳富猪一郎

188



039617-000-3

33-183

将来之日本

徳富 猪一郎/著

M20.2

BDA-0195

